

年表：図書館書籍郵便料金制度（LBR）

年	CLA 会長	CLA 事務局長	LBR 関係	図書館界等関係
1939 年			定期刊行物(雑誌、新聞等)の配送に使われる補助金制度の一部として LBR が実施される。	
1946 年		Elizabeth Homer Morton	図書館書籍郵便料金(LBR)の値上げ(第 1 回)。	カナダ図書館協会(CLA)設立
1947 年	Dr. Freda Waldon			
1948 年	Dr. William Kaye Lamb		1948 年～1962 年: 定期刊行物(LBRも含む)の郵便の補助金の金額が 746 万ドルから 2467 万ドルまで増加する。平均して 1 年あたり 100 万ドル以上の増加。	
1949 年	Elizabeth Dafoe			
1950 年	Dr. Kathleen Jenkins			50 年代から 60 年代まで: 連邦政府は教育、移住、経済発展のための対策を強化する
1951 年	William S. Wallace		LBR の値上げ(第 2 回)。	Massey Report が「地域図書館」の概念を勧める
1952 年	Marion Gilroy			国立図書館の創設。全国レベルでの総合目録・リソースの共有が可能になる。
1953 年	Edgar S. Robinson			
1954 年	Peter Grossman			
1955 年	Anne Hume			
1956 年	Willard Ireland			
1957 年	Mary Donaldson			
1958 年	Alberta Letts			
1959 年	Dr. Robert Blackburn			
1960 年	Dr. Bertha Bassam			60 年代から 70 年代まで: 州政府による図書館への補助金が増加。
1961 年	Neal Harlow			
1962 年	Robert M. Hamilton			
1963 年	Ruby Wallace			
1964 年	Edmond Desrochers			
1965 年	David Foley			
1966 年	William R. Castell			

年	CLA 会長	CLA 事務局長	LBR 関係	図書館界等関係
1967 年	Dr. John Archer		CLA が連邦政府に対してアドボカシー活動を行う。その結果、料金の値上げは、図書館にもたらす効果が詳しく判明するまで延期される。	
1968 年	Amy Hutcheson	Clifford Currie		1968 年(?) : 二つの王立委員会および Bill C-116 の決定により、郵政省が国営化し、一般郵便料金が値上げされる。
1969 年	Katharine Ball			
1970 年	Bruce Peel		1970 年代: 図書館がアルバム、フィルム、マイクロフィルム等を収集し始める。 図書館界は LBR が書籍のみを対象とすることに限界を感じ始める。	70 年代から 80 年代まで: 州政府からの図書館への補助金が減額。ほとんどの予算を地方政府が負担することになる。
1971 年	Martha Shepard			
1972 年	Dean Halliwell	Bernard McNamee		
1973 年	Harry Easton			
1974 年	Harry Campbell		CLA が 16mm のマイクロフィッシュを LBR の対象に含めるよう提言するが、承認されず。	
1975 年	Mary E. P. Henderson	Paul Kitchen		
1976 年	R. Brian Land			
1977 年	Anne Piternick			
1978 年	Ken Haycock		LBR の財政・政策を担当する省庁がカナダ郵政省から国務長官に移行。 LBR の財政・政策を担当する省庁が国務長官からコミュニケーション省に移行。実際の運営は 1981 年以降郵政公社が担当する LBR の値上げ(第 3 回)。 LBR が第 3 種郵便および第 4 種郵便料金の 25% に設定されることが決定。それによる値上げの影響が深刻であることが、図書館界から報告される。(ノバスコシアでは、13% の ILL 費用の増加、ブリティッシュコロンビアでは 120% の増加があったと報告される。)	
1979 年	Ron Yeo		LBR の値上げ(第 4 回、第 5 回)。	
1980 年	Erik Spicer			1980 年代: 図書館によるビデオ、カセットの取り扱いが開始
1981 年	Alan MacDonald		新協定により、連邦政府がカナダ郵政公社に補助金を払うことが決定。	カナダ郵政省が公社化し、カナダ郵政公社となる
1982 年	Marianne Scott		郵政公社への補助金をコミュニケーション省と国家財政委員会が負担す	

年	CLA 会長	CLA 事務局長	LBR 関係	図書館界等関係
			ることが決定。 LBR の値上げ(第 6 回)。	
1983 年	Pearce Penney		LBR の値上げ(第 7 回)。	
1984 年	Lois Bewley		CLA は LBR の対象に非印刷物を含めることを提言するが、許可されず。	
1985 年	Judith McAnanama		コミュニケーション省が郵便料金補助金制度の評価を開始し、その廃止を検討する。 LBR の値上げ(第 8 回)。	
1986 年	Beth Miller	Francoise Hebert (1986, 代理) Jane Cooney (1986-1989)	定期刊行物向けの補助金が 2 億ドルを超える	
1987 年	Ken Jensen		CLA/ASTED は、LBR を通常の料金値上げの対象から免除すべきとの報告書をコミュニケーション省に提出する。 コミュニケーション大臣(Flora McDonald)は、LBR が連邦政府の評価段階にあるとの見解を示す。その評価のプロセスに LCA も参加することが認められる。 内閣に対して、刊行物支援プログラム(PDAP)の対象物を検討する必要があるとの報告が行われる LBR の値上げ(第 9 回)。	
1988 年	Bill Converse		LBR の値上げ(第 10 回、第 11 回)。	
1989 年	Vivienne Monty		LBR が第 3 種郵便および第 4 種郵便の 25%ではなく、単独の料金体系に戻る。 LBR の値上げ(第 12 回)。	
1990 年	Beth Barlow	Sharon Henry (1990, 代理)	刊行物支援プログラムに多くの変更が加えられる(主に補助金の減少)が LBR には影響なし。 新協定により LBR の値上げが決定。図書館間の相互貸出に対する予算が増加する。	1990 年代: 自動化が進んだ結果、利用者の総合目録へのアクセスが増え、相互貸し出しに対する要求が高まる。図書館に情報化技術を導入するための予算が増える
1991 年	Ernie Ingles	Karen Adams (1991-1998)	LBR の値上げ(第 13 回)。	
1992 年	Marnie Swanson		LBR の値上げ(第 14 回)。	
1993 年	Margaret Andrewes		国立図書館が LBR アドボカシーに積極的に関与し始める。 コミュニケーション省が廃止され、ヘリテージ省と産業省(Industry Canada)に分割される。 刊行物支援プログラムの管理はヘリテージ省の担当に変更。 刊行物支援プログラムの予算は約 9200 万ドル。	

年	CLA 会長	CLA 事務局長	LBR 関係	図書館界等関係
			刊行物支援プログラムの実施が 2 年間延長される。 LBR の値上げ(第 15 回)。	
1994 年	Francoise Hebert		ヘリテージ省は LBR の利用について詳しく検討するための研究報告を NLC, CLA, ASTED の代表に依頼する。 LBR の値上げ(第 16 回)。	
1995 年	Patricia Cavill		NLC, CLA, ASTED の代表は、補助金の継続と範囲の拡大をヘリテージ省に要求するが、ヘリテージ省からの返事は得られず。 LBR の値上げ(第 17 回)。	
1996 年	Penny Marshall		補助金を出版社に支払うという新たな刊行物支援プログラムが誕生するが、その開始までは現行のプログラムが継続して実施される(3 年間延長) LBR の値上げ(第 18 回)。	
1997 年	Karen Harrison		世界貿易機関(WTO)が、刊行物支援プログラムは Article III:8(b)に反するとの判断を下し、補助金は直接出版社に支払われることが決定。刊行物の郵便料金優遇制度は廃止されるものの、LBR は続行。 ただしカナダ郵政公社が LBR の資金を全てカバーすることになる	
1998 年	Paul Whitney	Leacy O'Brien (1998, 代理) Vicki Whitmell (1998-2002)	新協定により、郵政公社の反対を押し切って LBR の延長が決定。 ヘリテージ省は NLC, CLA, ASTED の代表に研究報告を依頼する LBR の値上げ(第 19 回)。	
1999 年	Syd Jones		LBR の値上げ(第 20 回)。	
2000 年	Stan Skrzszesewski		LBR の値上げ(第 21 回)。	
2001 年	Margaret Law		ヘリテージ省が包括的な研究報告を委託する LBR の値上げ(第 22 回)。	
2002 年	Wendy Newman	Don Butcher (2002-)	「2002 Study of the Library Book Rate」発行。 新協定により、3 年間の LBR の延長が決定。 LBR の値上げ(第 23 回)。	
2003 年	Madeleine Lefebvre		LBR の値上げ(第 24 回)。	
2004 年	Stephen Abram		2005 年以降の契約に向けて交渉が始まる。 LBR の値上げ(第 25 回)。	国立図書館(NLC)と国立公文書館(NAC)が合併し、国立図書館・公文書館(Library and Archives Canada, LAC)誕生
2005 年	Barbara Clubb (次期会長)		最新の契約期間が満了となる。	